

平成28年度 自己評価表 坂町立坂小学校

～志を立て 社会で活躍する児童の育成～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	実績値		目標値	評価 (自己評価の結果)	成果と課題	改善策 (次年度に向けて)																															
				1学期末	3学期	H28																																		
豊かな心の育成 ・礼節を重んじる道徳性の向上 ・信頼と思いやり	礼儀正しいあいさつ	・各学級で月初めに目標を確認し、取り組み方について話し合い、月末に振り返る。 ・生活委員会で挨拶運動を行い、期間中を中心に学級で振り返りを行う。 ・アンケート項目「ぼく・わたしは、学校や家や地域で、進んであいさつができる」	児童アンケート	89%	86%	85%	B	○①大きな声で②はっきりと③立ち止まってというポイントを絞った指導が効果的であった。特に、立ち止まって5秒礼であいさつをする児童が増えてきた。 ○生活委員会児童の主体的な取組になっている。(あいさつ運動・児童朝会) ●学校の中で、先生に対してはあいさつできるが、地域の中であいさつは充分ではない。	・あいさつのポイントを絞った取組と評価を継続する。 ・生活委員会児童の取組を、月の目標と関連付けて日常化する。																															
	掃除の徹底(黙動清掃)	・各学級で月初めに目標を確認し、取り組み方について話し合い、月末に振り返る。 ・毎日学級ごとに、めあてに沿った振り返りを行う。 ・美化委員会を中心に掃除時間の徹底の啓発活動を行い、校内美化の意識を高める。 ・アンケート項目「ぼく・わたしは、めあてをもって掃除をすることができる」	児童アンケート	80%	76% ▼	80%	B	○めあて(月の目標)を意識した声かけをする姿、振り返りをする姿が見られた。 ●だまって一生懸命掃除をする児童が、減ってきている。	・人数配分を見直し、そうじの仕方を明確に示す。 ・年度当初、そうじの仕方のオリエンテーションを行う。 ・そうじをすることの価値を教職員と児童が共通理解する。																															
コンピテンシーの育成を目指した主体的な学びの充実	確かな学力の習得 活用力の育成	・「さかしよう学びのサイクル」(坂町授業システムを含む)を取り入れて授業改善を行う。 ・家庭学習(読書を含む)の習慣化と内容の充実を図り、授業とのつながりを意識して指導と評価を行う。 ・各種学力調査の分析を行い、フォローアッププリントを活用して定着を図る。 (参考資料:平成27年度結果)	「基礎・基本」定着状況調査	県平均 +6.5 全国平均 +2.7	県平均 +6.5 全国平均 +2.7	県平均過渡率 +3% 全国平均 +5%	B	○「基礎・基本」定着状況調査は県平均を、全国学力・学習状況調査は全国平均を超えることができた。基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着している。 ●各教科とも学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力に課題がある。	・改善計画に基づいて取組を実施している。今後は、学年の学習内容の総復習を行う。また、次年度実施学年には各種学力調査の過去の問題にも取り組ませていく。																															
			標準学力調査	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">平均正答率の比較</th> <th colspan="2">国語</th> <th colspan="2">算数</th> </tr> <tr> <th>本校</th> <th>県・全国</th> <th>本校</th> <th>県・全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年生 標準学力調査</td> <td>75.2</td> <td>71.8</td> <td>72.2</td> <td>68.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">△3.4</td> <td colspan="2">△3.8</td> </tr> <tr> <td>5年生 「基礎・基本」調査</td> <td>76.8</td> <td>74.7</td> <td>69.7</td> <td>71.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">△2.1</td> <td colspan="2">▼1.9</td> </tr> </tbody> </table>	平均正答率の比較	国語		算数		本校	県・全国	本校	県・全国	4年生 標準学力調査	75.2	71.8	72.2	68.4			△3.4		△3.8		5年生 「基礎・基本」調査	76.8	74.7	69.7	71.6			△2.1		▼1.9		8/16 ▼	全国正答率を超える教科 11/16	C	○中学年以上は目標値と同程度や上回っている教科が多い。 ●低学年は目標値より下回った。全体的に読解力・表現力が弱い。	・結果分析から明らかになった課題について、フォローアッププリントを活用しながら復習を行っていく。(各学年の具体的な取組については別紙参照)
			平均正答率の比較			国語		算数																																
					本校	県・全国	本校	県・全国																																
4年生 標準学力調査	75.2	71.8	72.2	68.4																																				
		△3.4		△3.8																																				
5年生 「基礎・基本」調査	76.8	74.7	69.7	71.6																																				
		△2.1		▼1.9																																				
「主体的な学び」のアンケート	12/17	17/17 △	県平均を超える項目 10/17	A	○全ての項目で、県平均を超えることができた。 ○児童も教職員も表現することを意識して取り組んでいる。 ○活用力向上をめざした、授業改善、単元開発を学校全体で行うことができた。 ●課題である表現力に対する、肯定的評価が依然と低い。	・少人数、全体でのかわり合いを意図した授業改善の取組を継続する。 ・児童の表現の場を増やすとともに、肯定的評価をして自信を付けさせる。																																		
たくましい体の育成 ・体力の向上 ・基本的生活習慣	筋力の向上	・休憩時間の外遊びを奨励する。 ・体育の授業に筋力を向上させるためのサーキットトレーニングを取り入れる。 ・家庭での取組を促すための保護者への啓発を図る。	新体カテスト「上体起こし」「握力」の項目が県平均を超えている児童の割合	53%	71% △	65%	A	○ほとんどの学年で数値(記録)が伸びている。業間の5分間走やシャトルラン参観日に向けた体育授業での取り組みと「走る」運動による筋力を含めた総合的な体力向上による成果が大きい。 ○大きさの異なるボールを学級に配付するなど、環境面を整えたことで、ボールを使って外遊びする児童が増えた。 ●上体起こしは、1年男子、4年女子、5年男子、6年男女が目標値に達していない。握力は、1年男女が目標値に達していない。	・引き続き、上体起こしやボール投げなど、筋力向上に取り組む必要がある。 ・筋力向上につながり、日常的に遊び感覚で取り組める運動(腕撲など)や教室での簡単な運動の紹介を行う。																															
保護者や地域から信頼される学校にする	組織的、主体的(迅速・丁寧)な保護者対応と児童理解ができるチーム坂小	・気になることはその日のうちに保護者と連絡を取り、丁寧に説明する。 ・課題や取組を共有し、学校教育目標の具現化に向けて、協働して対応する。	保護者アンケートによる満足度 教職員アンケート	89%	86% ▼	95% 90%	C	○学年主任、生徒指導主事・管理職への報告・連絡・相談による組織的な体制が定着しつつある。 ●課題の共有、記録による報告が充分ではなかった。 ●児童・保護者に寄り添う指導の視点で、対応にあたる。	・保護者、地域、関連機関との連携をさらに密にし、チーム坂小で坂小の子どもを育てる意識をもつ。																															

【自己評価 評価基準】 A: 目標は十分達成された(目標値+5%以上) B: 目標は達成された(目標値±4%)
C: 目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D: 目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)